

日本教育実践学会第10回研究大会

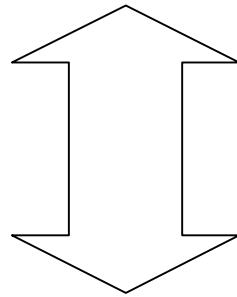
2007年11月10日

# 英語を学習する意味が見いだせない学 習者のための自律学習の開発方法(3) －学生の学習過程からみた設計の修正－

○京都ノートルダム女子大学 東郷多津  
NPO法人学習開発研究所 望月紫帆  
武庫川女子大学 高橋朋子  
神戸親和女子大学 中植正剛  
環太平洋大学 山崎瞳

# 私立大学の実情

- 学生の確保
- 学習の質保証と少人数制クラスのバランス

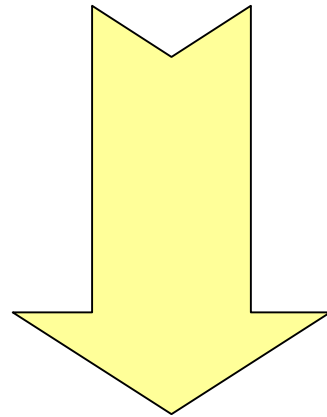


# 学生の実態

- 多様化する入試による多様な学生の存在
- 学習する意味が多様

# 従来の授業開発

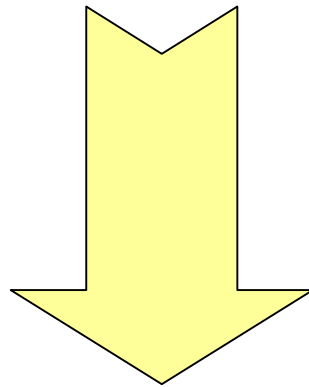
大学入学を志望し、最低限の科目  
に対する基礎知識がある、学習す  
る意味を認識している学生



学習理論や方法論から設計した授業

# 今後の授業開発

- 多様化する入試による多様な学生の存在
- 学習する意味が多様



多様なニーズに対応できる  
教育技術の開発 (西之園他 2006)

# 新たな授業開発

学習する意味が見いだせない学習者が  
自律的に学ぶことができる授業を目指し、  
プロジェクトチームで協同開発する

プロジェクトメンバー:








































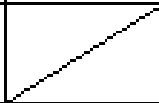






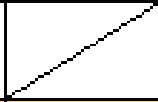


NPO法人学習開発研究所(代表 西之園晴夫)の研究グループGQRの有志5名。高橋朋子(武庫川女子大学)、東郷多津(京都ノートルダム女子大学)、中植正剛(神戸親和女子大学)、望月紫帆(NPO法人学習開発研究所)、山崎瞳(環太平洋大学)

# なぜチームで協同開発するのか？

- 一教員による授業開発の限界
- 多様な専門における教育技術の相互活用
- カスタマイズ可能な新しい教育技術としての開発手法の援用

# 開発手法としてのメタファー（健康管理）

イラスト：高橋朋子

後期より開講	Chapter9 ★★★★（イタリアン）	必修						chapter9までの 応用問題  条件クリアした人が チャレンジできる		
	Chapter8 ★★★★（イタリアン）	必修								
	Chapter7 ★★★（中華）	必修								
	Chapter6 ★★★（中華）	必修								
	Chapter5 ★★★（中華）	必修								
前期より開講	Chapter4 ★★（和食）	必修		8P 	13P 	10P 	23P 	chapter4までの 応用問題  条件クリアした人が チャレンジできる  最高23P	RANK4 ☆☆☆☆ 5P 	
	Chapter3 ★★（和食）	必修		8P 	13P 	10P 	20P 		RANK3 ☆☆☆ 4P 	
	Chapter2 ★★（洋食）	必修		5P 		10P 	17P 		RANK2 ☆☆ 3P 	
	Chapter1 ★★（洋食）	必修		5P 	10P 		15P 		RANK1 ☆ 2P 	
chapter ランク	Unit A	Unit B	Unit C	Unit D	Unit E	アタックチャンス		オマケ		
	Unit内容	単語	文法1	文法2	創造	総合問題	自己表現			
学習形態	チーム学習					個人学習				

# これまでの発表

- ・2007年6月中部地区英語教育学会三重大会  
開発した授業についての概要(東郷)
- ・2007年9月日本リメディアル教育学会第3回全国大会  
開発した補助教材についての分析(東郷他)
- ・2007年9月日本教育工学会第23回全国大会  
コミュニケーションツールのログ分析によるプロジェクトチームメンバーの役割について(高橋他)



# 対象授業

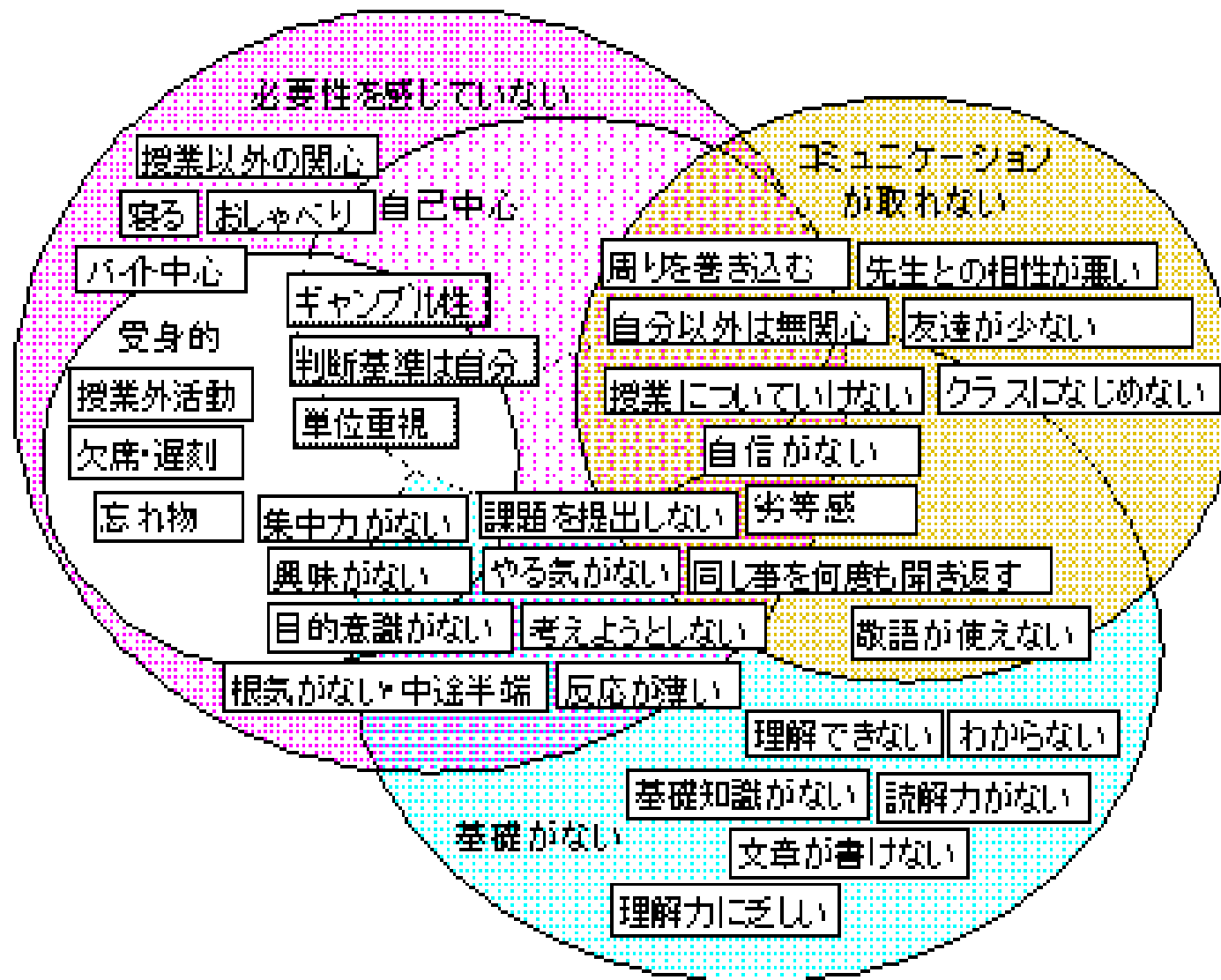
救済措置

- ★対象授業: 再履修生のための英語(Writing)  
(1年次生必修科目)
- ★対象者: A私立女子大学、英語を専門としない学部の再履修生(2,3年次生10名)
- ★使用テキスト Get Ready to Write 2<sup>nd</sup>  
(Longman) (Writingクラス共通テキスト)
- ★履修の目的: 単位取得

**単位取得率: 43%**

# 再履修生のイメージ

図：高橋朋子



# 作成した補助教材など

- 「腕試しテスト」
- 「学習マップ」
- 「学習計画シート」
- 「診断テスト」とその解答
- 「査定シート」
- 「メニューシール」

# 目的

- 学生の学習過程を見ることによって、英語を学習する意味が見いだせない学生の自律的な学びに有効な操作ポイントを探り、学習指導設計の改善を図る



# 学生の学習プロセス

- 1) 診断的テストをする
  - 2) 学習計画をたてる
  - 3) 学習に取り組む
  - 4) 査定をする
  - 5) 学習を記録し、再計画する
- 3) ~ 5) 繰り返し

# 学習計画シート

1. 現在の自分の目標を明らかにしましょう
  - ・取得ポイントの表明
  - ・腕試しテストの結果選んだ開始チャプター
2. どのように単位を取得を目指すかを決めましょう
  - 必須a 60ポイント以上取得
  - 必須b 各チャプターの最初の問題
    - ・4つの選択肢からポイント取得方法を選択

# 最初の学習計画

Aさん:《79ppt.》	Cさん:《60ppt.》
<u>Chap1</u> から開始 + Chap1 ~4から異なるタイプの問 題を1問ずつ選択	<u>Chap1</u> から開始 + Chap1 ~4から異なるタイプの問 題を1問ずつ選択



# 最終授業日(7/25)直前の学習計画

<p>Aさん:7月4日 《累積P.37ppt.》 《累積P.79ppt.》</p>	<p>Cさん:7月18日 《累積P.18ppt.》 《目標P.60ppt.》</p>
<p>出席回数は少ないが、授業外学習を進め、計画的に目標達成に近づけている。</p>	<p>途中で一旦学習を放棄する。その間の課外学習はなく、その後学習に復帰しても計画修正には至らなかった。</p>

# 最終結果

Aさん:《79ppt.》

初志貫徹型  
—ゴールビジョン有

Cさん:《60ppt.》

軌道修正不可能型  
—ゴールビジョン無

共通点

- 最初に立てた学習計画に誘導されていた
- 質は不問だった

## 考察

学習計画の仕組みを工夫すれば、  
効率性だけでなく質の高さを追  
求した学習を実現できると考えら  
れる。

# 単位取得者Aの事例

[授業の様子](7月4日のT1授業日誌より抜粋)

9:58 診断テストの確認終了

T2がAさんに計画と診断が合っているかを確認する。...どの部分を選んでいるかの話になり、A:「文章考えるの苦手」「日本語考えるのが」T1:「英語で考えたら？」A:「いやその前にアイデアを考えるのがいや」T2:「わかる...」だから考えなくてもいい問題を選んでいるという話になり、T1:「だって目的はなんやっ  
た?」A:「そう、単位とること」T2:「数はこなさなきゃならないんだ。そういうやり方もあるね...」

# Aの課題

[授業の様子](7月4日のT1授業日誌より抜粋)

9:58 診断テストの確認終了

T2がAさんに計画と診断が合っているかを確認する。...どの部分を選んでいるかの話になり、A:「文章考えるのが苦手」「日本語考えるのが」T1:「英語で考えたら？」A:「いやその前にアイデアを考えるのがいや」T2:「わかる...」だから考えなくてもいい問題を選んでいるという話になり、T1:「だって目的はなんやった？」A:「そう、単位とること」T2:「数はこなさなきゃならないんだ。そういうやり方もあるね...」

【ポイント】(7月4日のT2観察日誌より抜粋)

「健康管理」というメタファーから言うと、  
「自分の健康維持のために必要なもの」というよりも、「食べるのが楽なもの、あるいはすぐ食べることができるもの」を重視する場合もある。その場合は「writing」としてのクオリティは一切追求されない。  
ただ、今回は「正当な理由で単位を与える」ということが目的なので、それもOKということになる。

# 単位取得者Cの事例

[授業の様子] (7月18日のT2観察日誌より抜粋)

10:26 学習計画のための用紙を渡す

C 計画がうまくたてられない (およそ60ポイントに近づけないプランをたてる)

T2 「ゆっくり考えて後ほどメールで送って」といいメールアドレスを渡す。

[Cさんとの会話ポイント箇条書き]

- ・学校に来るとき来ないときがある
- ・朝は起きれない(ほかの人も同様?少なくともAさんは同様)
- ・学校で勉強しても家で勉強しても同じ
- ・あまり勉強がはかどらない
- ・テストが嫌い
- ・テストがあるほかの授業に比べれば、この授業のスタイルは自分に合っている
- ・パソコンは家にある。でも毎日使うわけではない。携帯はよく使う。
- ・もうこの授業は通らないと思っていた (計画段階でさほど焦りが感じられなかったのもそのせいかな?)

# Cの課題

[授業の様子] (7月18日のT2観察日誌より抜粋)

[Cさんとの会話ポイント箇条書き]

- ・ 学校に来るとき来ないときがある
- ・ 朝は起きれない(ほかの人も同様?少なくともAさんは同様)
- ・ 学校で勉強しても家で勉強しても同じ
- ・ あまり勉強がはかどらない
- ・ テストが嫌い
- ・ テストがあるほかの授業に比べれば、この授業のスタイルは自分に合っている
- ・ パソコンは家にある。でも毎日使うわけではない。携帯はよく使う。
- ・ もうこの授業は通らないと思っていた (計画段階でさほど焦りが感じられなかったのもそのせいかな?)

[授業の様子と感想] (7月18日のT1授業日誌より抜粋)

Cさんを見ているとやはり「パートナーが必要である」ことがかなりネックになっているように思う。次のところでも「パートナー」がいる所はどうしたらいいか聞いていた。(私(T1)かT2がいるから自分で確かめたら声かけて)と答えた。

# 参考文献

- 東郷多津(2007)「英語を学習する意味が見いだせない学習者のための自律学習の開発方法(1)－再履修生対象のWriting classでの適用－」中部地区英語教育学会三重大会
- 西之園晴夫、宮田仁、望月紫帆(2006)「教育実践の研究手法としての教育技術学と組織シンボリズム」教育実践学研究 第8巻第1号、日本教育実践学会
- 西之園晴夫、宮寺晃夫編著(2005)『佛教大学教育叢書 教育の方法と技術』ミネルヴァ書房
- ウヴェ・フリック(小田博志、山本則子、春日常、宮地尚子訳)(2002)『質的分析入門－〈人間科学〉のための方法論』春秋社
- 高橋順一、渡辺文夫、大淵憲一編(1999)『人間科学研究法ハンドブック』ナカニシ出版西之園晴夫(編著)2007『学習ガイドブック 教育の技術と方法－チームによる問題解決のために－』ミネルヴァ書房.